

切手には御用人中不及奥書、頭奥書之事。
右今般御用人中被申聞如此候條、御番所留帳に被記置、無
相違様可有御心得候。以上。

(寛延三年)
庚午九月廿八日

丹羽武兵衛

三之御丸御番人衆中

二八 御宮御社參之節服用有之 者之儀覺

覺

一、御宮等御社參之節、御供人御目見以上服用改被遊候。
御歩以下前々之通御食着無之候事。
一、御殿閑に罷出候者、御社參以前、御目見以上之者は御
目通指扣可申候。是以御歩以下御食着無之候事。
一、御近邊は各別に候間、前々之通に可相心得事。
一、外頼御番人等者、假令侍分たりとも指扣不及申、勤番
可仕事。
右江戸表・御國共、向後此通に可相心得旨、丹羽澤右衛門を
以被仰出候事。

八月八日

右之通被仰出候旨、御横目中被申聞候條、御宮御社參之節、
御番人之内服用有之方候共、向後被指扣不及申候條、可被得
其意候。尤可被申送候。以上。

亥九月廿四日

溝口舍人

三之御丸御番人衆中

二九 御番所御番人裝束之儀覺

正月三ケ日 諸番所のしめ・上下

但、二日夜御在國には御誦初有之に付、暮六時
より四時迄のしめ・上下着用。其外は元日たりと
も泊番は袴迄也。

同 四日 三之御丸・橋爪・河北・石川服紗小袖・布上
下。御規式齊常服。

同 六日 御在國之時分は寺社方御禮有之に付、右四
ヶ所服紗小袖・布上下。

同 七日 一統服紗小袖・布上下。御在國・御留守共。
同 十五日 右同斷。

二月朔日 三之御丸・橋爪・河北・石川、服紗小袖・布上
下。出仕以後繼肩衣。

四ヶ所之外は一統繼肩衣。

同 十五日 同斷。

三月朔日 同斷。

同 三日 一統服紗小袖・布上下。

同 十五日 月次之通。

四月朔日 同斷。袴。足袋不用。

同 十五日 同斷。

五月朔日 同斷。

同 五日 一統帷子・布上下。

同 十五日 月次之通。

六月朔日 同斷。

同 十五日 同斷。

七月朔日 同斷。

同 七日 一統布上下。

同 十五日 御在國・御留守共出仕無之に付、三之御丸・
橋爪始其外一統繼肩衣。

八月朔日 月次之通。

同 十五日 同斷。

九月朔日 同斷。袴。

同 九日 一統服紗小袖・布上下。但十日より足袋。

同 十五日 月次之通。

十月朔日 同斷。

同 十五日 同斷。

十一月朔日 同斷。

同 十五日 同斷。

十二月朔日 同斷。

同 十五日 同斷。

一、歳暮御禮登城之事、御在國には三之御丸・橋爪・河北・
石川裝束無食着常服也。御留守には大の月は廿九日、小
の月は廿八日に、時を定登城に付、四ヶ所之御番所、朝より
服紗小袖・布上下、出仕齊常服也。

一、御參勤・御歸城共に、其日一日諸番所布上下之事。